

## ゆたか倶楽部 よもやま話

番外編

vol. 17

私の「最後の添乗員としてのツアー」

として、「四国八十八ヶ所巡拝」3月4日～15日・12日間、「日本一周フェリー2800キロの旅」3月17日～22日・6日間に行ってきました。

今年2020年は、四国八十八ヶ所霊場「逆打ち」の年に当たります。約1200年前、弘法大師（空海）が人々を災いから救うため四国に建てた八十八ヶ所のお寺をお参りすることを「打つ」と言い、順番通りに巡れば「順打ち」、逆に回れば「逆打ち」と呼ばれています。八十八ヶ所のお寺を巡る順番に決まりはなく、88番まで全てのお寺をお参りすれば結願（けちがん）となるのですが、閏年の逆打ちはより多くのご利益を頂けると人気です。なぜそのように言われるようになったのか

……その理由は「衛門三郎伝説」に由来しています。

伊予を治めていた強欲の豪農、衛門三郎の元にみすばらしい僧侶が連日現れ、托鉢をするので追い返してしました。8日目とうとう堪忍袋の緒が切れた三郎は、杉の杖で僧の鉢をたたき落とし、割ってしまいます。それ以降、僧侶は現れなくなりましたが、三郎の家では不幸が続くようになりました。8年前の僧侶が空海だったことに気づいた三郎は、自分の振る舞いが不幸を招いたことを悟り、空海にお詫びするために四国霊場を巡ります。8年目の21周目で逆打ちを始め、あまりの厳しい道のりに病に倒れた三郎の元に空海が現れ、望みを叶えました。その巡り合えた年が、閏年だと言われています。三郎は白装束に魔除けの笠を被り、杉の杖を持ち、いつ死んでもいい姿でお遍路に出発したそうです。この装束が、現在のお遍路さんのスタイルとして続いています。

今回は20名のお客様と行く予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で6

名様になり、移動の足をバスからジャンボタクシー1台に変更し、無事に巡ってきました。八十八ヶ所中、最も急峻な45番岩屋寺では、奇跡的に雨が上がり、一人も欠けることなく全員が結願いたしました。参加された皆様、本当にお疲れ様でした。

「日本一周フェリー2800キロの旅」はオレンジフェリー、さんふらわあ、太平洋フェリー、きそ、商船三井フェリーの4隻を乗り継いで日本列島を巡る、日本一周クルーズの最短コースです。3月14日に2回目の首相会見があり、各地での急な変更が予想されることを、集合の東京駅で参加者に説明してからの出発になりました。新型コロナウイルスへの対策としてマスク、体温計、除菌ジェル、除菌シートの4点セットを常に持ち歩きましたが、ご自身で用意してくださいました方がばかりでした。フェリーの対策は4艘それぞれで、3艘が非接触体温計を額にかざして検温してから乗船です。どこに行くにも入るにも手のアルコール消毒が必要で、肌が弱い方は手が荒れてしまいました。

今回一番困ったのが食事です。さんふらわあは食事の提供が一切中止になりました。大分港から乗船前に夕食を取り、早朝に神戸港に到着後、朝食をコメダ珈琲で取っていただきました。6年連続「フェリー・オブ・ザ・イ

ヤー」日本一受賞の太平洋フェリー「きそ」は、大スクリーンの映画やショーが魅力なのですが、すべて中止になりました。北海道ではノーザンホースパークが臨時休園となり、新装となった有珠山ロープウェイに乗り、登別第一滝本館の温泉入浴に変更しました。



行く先々で新型コロナウイルスの影響を感じの中で、一番衝撃だったのが観光バスです。四国と日本一周の添乗期間中の合わせて18日間のうち、大型観光バスにすれ違ったのがたった1回、1台しかなかったことです。その1台（15名の団体）は、太平洋フェリーの仙台～苫小牧間のワンナイトクルーズに訪れた大手旅行社の仙台支店のものでした。我々も参加者が大幅に減って7名様になり、バスからジャンボタクシーになりました。バス会社の前を通ると、利用されない大型観光バスがずらりと並んでいました。

新型コロナウイルスの1日も早い終息を願うばかりです。

